

令和元年12月5日 開会

令和元年 第4回 東松島市議会定例会

## 議員一般質問通告書

東松島市議会

## 《 議員一般質問 目次 》

令和元年 第4回 定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	齋藤 徹	1 ICTを活用した利便性のさらなる向上を目指せ	3
第2位	石森 晃寿	1 災害に対する備えについて	4
		2 市民の医療の確保について	5
		3 道の駅構想の実現について	6
第3位	五ノ井 惣一郎	1 復興庁の設置期限延長を問う	7
		2 台風第19号の対応を問う	8
		3 東京2020オリンピック聖火到着式を問う	9
第4位	土井 光正	1 台風第19号の被災を教訓に防災・減災対策を急げ	10, 11
		2 大川小最高裁判決による教育現場の防災対策を整備せよ	12
		3 小学校、中学校における愛着障害の実態を把握し対処せよ	13
第5位	小野 幸男	1 災害対応について問う	14
		2 命の橋について再度問う	15
第6位	櫻井 政文	1 防災教育について（大川小の教訓を活かして）	16
		2 自衛官募集事務について	17

順位	氏名	件名	頁
第7位	上田 勉	1 矢本海浜緑地パークゴルフ場の指定管理と防災態勢のあり方について	18
		2 ソフトバンク地方創生インターンシップの継続を提案する	19
		3 防衛関連予算の効果的運用について	20
第8位	小野 恵章	1 聖火到着日をメモリアルな日に	21
		2 友好都市から経済互換都市へ	22
第9位	長谷川 博	1 原子力災害広域避難計画について	23
		2 市営墓地の整備について	24, 25
第10位	滝 健一	1 将来を見据えた政策の検討を	26
第11位	阿部 としゑ	1 避難所の不備を見直せ	27
		2 今後の給食の在り方について	28
第12位	熱海 重徳	1 コミュニティ・スクール事業について	29
		2 道路側溝の管理について	30
第13位	手代木 せつ子	1 選挙行政について	31
		2 粗大ごみのリユース化について	32
第14位	佐藤 富夫	1 公共施設等総合管理計画の現在進行形は	33

【質問者数14人・質問件数29件】

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>齋藤 徹</p>	<p>1. ICTを活用した利便性のさらなる向上を目指せ</p>	<p>ICTを活用した行政改革等が本市のみならず、他自治体においても盛んに執り行われているが、その手法はさまざまなものがあるのが現状である。</p> <p>窓口業務を支援するシステムを導入して、申請書の作成を支援するストレスフリーの「書かない窓口」の実現や、令和2年度から実施予定であるマイナンバーカードを活用した消費活性化策（マイナポイント）はカード発行の増加に大いに期待できる。加えて、議会においては情報の電子化とペーパーレスの推進の観点から、近い将来ICT機器導入の予算措置は避けられないものと思料する。</p> <p>以上の点から、所見を伺う。</p> <p>(1) マイナンバーカードの利便性向上のため、市独自の施策の考えは。</p> <p>(2) 窓口での市民サービス向上のためのICTの利活用に対する考えは。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>1. 災害に対する備えについて</p>	<p>最近、地球温暖化の影響と思われる、台風、豪雨等による災害が全国的に見られるようになった。本市でも、台風第19号により、農林漁業施設、道路施設等の被害があった。</p> <p>これまでは、「天災は、忘れた頃にやってくる」と言われていたが、最近は、「天災は、忘れないうちにやってくる」と訂正しなければならない事態になっている。</p> <p>市長は、市民の生命財産を守るのが最重要使命である。災害に対する備えは、万全か。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 鳴瀬川、吉田川等の氾濫が想定される危険箇所の把握と対策について。</p> <p>(2) 急傾斜地等、土石流等が想定される危険箇所の把握と対策について。</p> <p>(3) 一人暮らしの高齢者、身体の不自由な人等で移動手段がない人の指定避難所までの避難方法について。</p> <p>(4) 水位観測、避難誘導等、危険業務が想定される消防団員、市職員等の安全対策について。</p> <p>(5) 現在の指定避難所は、地震、津波、台風、豪雨等の天災等に対応できる指定避難所か。</p> <p>(6) 本市としての防災教育および避難訓練について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>石 森 晃 寿</p>	<p>2. 市民の医療の確保について</p>	<p>本市においても急速に高齢化が進み、市民が必要とする医療を確保することは非常に重要である。財政力がある自治体であれば、市立病院を建設して、必要となる市民のニーズに答える医療の確保はできる。</p> <p>しかし、本市では合併以前に旧矢本町が、公立深谷病院の経営に参画して多額の債務を抱え、現在もその債務を償還しており、医療の確保は、既存の民間病院に委ねたほうが、賢明と考える。</p> <p>幸い、本市には、診療科目に応じて入院が必要とされる患者の受け入れと、地域で発生する救急患者への対応ができる機能を併せ持つ病院がある。市民の医療を守るためには、病院の体制維持は必要であるが、国の医療制度改革や医師、看護師等の不足によるベッドの利用率の低下で、病院の体制維持は厳しい状況である。市長のマニフェストに「医療体制の確保に努める」となっているので、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 病院の体制維持に必要な運営費等に対する支援について。</p> <p>(2) 研修を兼ねた保健師の派遣(出向)等による支援について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>石森 晃寿</p>	<p>3. 道の駅構想の実現について</p>	<p>道の駅構想については、平成31年第1回定例会において一般質問した際、「ハードルは高いが、国土交通省と協議を進めていきたい」と答弁を頂いた。市長は、矢本海浜緑地の復活、矢本海浜緑地パークゴルフ場および宮城オルレ奥松島コースの新設などを手掛けた政治手腕があるので、道の駅構想の実現に邁進していると想像できるが、相手があることなので、時間を要するものとする。それまでの間は、別の利用を考えてみてはどうか。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 道の駅構想の進捗状況について</p> <p>(2) 道の駅構想の実現に時間を要する場合は、日曜朝市等イベント会場の利用について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>1. 復興庁の設置期限延長を問う</p>	<p>平成23年7月に策定した「東日本大震災からの基本方針」において、復興期間を平成32年度（令和2年度）までの10年間と定め、未曾有の大災害により被災した地域の復興にあたってきた。</p> <p>「復興・創生」期間終了まで2年をきったが、政府は復興庁の設置期限を10年延長するとの方針を示した。本市は大震災後、平成32年度（令和2年度）を目標に「復旧・復興」を進め、県下でも上位にランクされ、その評価も非常に高い。</p> <p>しかし、政府は東京電力福島第1原発事故からの再生には中長期的対応が必要としたが、津波被災地域の復興事業は前半の5年間での完了を明記した。村井宮城県知事は、支援継続が5年とされたことに関し「被災地に対し5年で切るのはやや強引」との見方を示した。</p> <p>本市は被災跡地、避難道路の整備および全体的な土地利用計画が今後の課題である。次の3点について伺う。</p> <p>(1) 本市は支援継続の5年延長により、どのような施策をするのか。</p> <p>(2) 復興庁の設置期限延長による東松島市第2次総合計画後期の見直しの考えは。</p> <p>(3) 「復旧・復興」計画の現時点での事業の進捗率は。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第3位</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>2. 台風第19号の対応を問う</p>	<p>気象庁は、宮城、福島、東京など13都県に大雨特別警報を発表、警戒レベル5に相当し、最大級の警戒や避難を求めた。</p> <p>県内では丸森町を含め土砂災害、河川の増水・氾濫が相次ぎ、多くの人命と財産を奪われた。東日本大震災で身をもって体験している市民にも改めて自然災害の恐ろしさが頭をよぎった。</p> <p>本市では台風第19号について、その警戒と早め早めの避難所への避難を防災無線で呼びかけ、930人が避難した。</p> <p>本市では、300戸の停電、土砂崩れおよび水田の稲わらの堆積等の被害があったが、人的被害はなく安堵した。</p> <p>これを期にさらに自然災害に対する教訓が成されたと思うが、次の3点について伺う。</p> <p>(1) 警戒レベル5の災害対策本部の対応はどのようにしたか。</p> <p>(2) 避難所への人的・物資の対応について問題はなかったか。</p> <p>(3) 避難所に避難者への情報網（ラジオ・テレビ）が無い所もある。その設置について必要であると思うが、考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>五ノ井 惣一郎</p>	<p>3. 東京2020オリンピック聖火到着式を問う</p>	<p>東京2020オリンピックは56年振りに来年7月24日～8月9日までの17日間開催される。3月12日にギリシャ古代オリンピア市で聖火採火式が行われ、ギリシャ国内を8日間聖火リレー後、3月20日に松島基地に聖火が到着する。石巻市、東松島市および女川町の子供たちと聖火を迎えるようだが、次の2点について伺う。</p> <p>(1) 松島基地での歓迎式典は、聖火を迎える式典の考え方と、今後の本市の対応について伺う。</p> <p>(2) 聖火が東松島市の松島基地に到着することは、国内外に報道される。そこで提案だが、この機会になんらかの都市宣言のアピールをして、今後の「まちづくり」に活用することも政策のひとつと考えるが、そのことについて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>土井 光正</p>	<p>1. 台風第19号の被災を教訓に防災・減災対策を急げ</p>	<p>10月12日に上陸した台風第19号は、東日本を中心に死者98人、行方不明3人に達する甚大な被害をもたらした。特に堤防決壊が71河川140カ所で発生し被害を大きくしている。(11月20日現在)県内においては、阿武隈川、吉田川の堤防決壊により、丸森町や大郷町等に甚大な被害をもたらした。</p> <p>本市では、死亡行方不明等の人的な被害はなく、住家の床上浸水もなかったのだが、床下浸水や住家法面崩壊等の被災を受けている。また、道路の陥没、法面崩壊、倒木等による生活への影響や公共施設等の被災および農業、漁業に関する被災も発生した。</p> <p>今回の台風による本市の気象データとしては、台風が近づいた13日午前2時頃には1時間に44.5mm/h、降り始めてから累計247.5mmの雨量を観測している。甚大な被害を受けた丸森町や大崎市鹿島台では、これらを遙かに超える降雨があった。台風の進路や気象状況によっては、本市でも同等の降雨に見舞われる可能性も十分にあると考える。これらのことを踏まえ「安全安心なまちづくり」を目指している本市について次の4点について伺う。</p> <p>(1) 震災の復旧事業として排水機場整備を行っているが、排水機場までの導水路や市内道路側溝の機能は十分に確保されているのか。</p> <p>(2) 今回、警戒レベル3の「避難準備・高齢者等避難開始情報」が発令され、「避難準備をして、早めに避難を開始してください」とのアナウンスがあったにもかかわらず、避難した人の中には、避難所が施錠され入れなかったという苦情があった。避難所開設の体制に問題はなかったのか。また、災害弱者と呼ばれている高齢者等の避難をどのようにしていくのか。</p> <p>(3) 大塩小学校では土石流で講堂等に土砂の流入があり、危険な状態となった。土砂災害防止法の特別警戒区域にも指定されており、今後の対応をどのようにしていくのか。</p>

(4) 近年、台風以外にも、集中豪雨など大雨による災害が頻発している。堤防から水があふれなくても、排水溝や下水道などの排水能力を超えたり、堤防内側の小規模河川があふれたりして道路や建物が浸水する内水氾濫も発生することも想定される。「内水ハザードマップ」を早期に作成すべきと考えるがいかがか。

【答弁を求める者 市長、教育長】

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>土井 光正</p>	<p>2. 大川小最高裁判決による教育現場の防災対策を整備せよ</p>	<p>大川小津波訴訟で最高裁判所は石巻市と宮城県の上告を退ける決定をし、14億円余りの賠償を命じた判決が確定した。最高裁が震災前の学校と行政の防災対策に過失があったと認めた2審の判断を支持したことになるが、学校や行政に対して、普段から高いレベルの防災対策に取り組む義務があるとしている。このことについて今後、教育現場の防災対策をどのように行うのか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>土井 光正</p>	<p>3. 小学校、中学校における愛着障害の実態を把握し対処せよ</p>	<p>東日本大震災から8年と9カ月経過し、国の復興・創生期間もあと約1年となった。本市においては、ハード面については、順調に整備を行っていることは存じているが、ソフト面におけるこころの復興については、まだまだ道半ばであり、さらなる時間を必要とし、多岐にわたる支援の必要性を感じている。</p> <p>先日、文部科学省佐々木政務官と宮野森小学校を訪問した際、学校長から喫緊の課題として震災当時3歳児以下だった現在の5、6年に愛着障害の児童が見受けられ、今後も引き続き対処していくための支援が必要であると話された。また、この件について、市内の小学校長が3年間にわたり調査していることがわかり、早速ヒアリングで現状を確認してきた。この中で愛着障害の児童については、的確なサポートが必要であることがわかった。このことについてどのように把握され、今後どのように対応していくのか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第5位</p> <p>小野 幸男</p>	<p>1. 災害対応について問う</p>	<p>今回の台風第19号による大雨で、当市は幸いにも大きな被害には及ばなかったが、吉田川は氾濫間近までの危険な状況であった。いまや日本国内に災害の無い地域が存在しないと断言しても過言ではない。温暖化の驚異に今後の災害への備えも踏まえ以下について伺う。</p> <p>(1) 鳴瀬未来中学校を避難所として周知するも、道路が冠水してしまい避難不可能になってしまった。反省と今後の対応について伺う。</p> <p>(2) 上下堤地区における国道45号線および周辺農地の冠水についての対応策について、今回を踏まえどのように取り組むのか伺う。</p> <p>(3) 鳴瀬牛網堤の大雨時の対策はどのようになっているのか。また、地域の土木担当、自主防災組織や消防団との協議はどのようにしているのか伺う。</p> <p>(4) 牛網地区の消防団より、現在の消防ポンプ車の格納場所が、公園との隣接で駐車スペースがなく、災害時の対応も心配されている。さらに団員数も多くなり、手狭の状況にあるので移転の希望を団員より要望されているが、その後の対応を伺う。</p> <p>(5) 想定外の災害対応について今後は地震・津波に限らず風水害による大雨被害や土砂災害が追加され、なかでも台風の超大型化が来年も続くであろうと気象関係者より報告されている。東松島市内全般の産業への影響と、市民の安心安全の確保の観点から来年度以降に向けた災害対応全般の取り組みを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第5位</p> <p>小野幸男</p>	<p>2. 命の橋について再度問う</p>	<p>一般質問の検証も踏まえて以前にも質問したが、宮戸島の鱧ヶ淵<small>わにがふち</small>と塩釜市の寒風沢島<small>さぶさわじま</small>を結ぶ全長100メートルに満たない夢の懸け橋について提案し、塩釜市長と協議を試みるとの答弁であったが、試みる前に新市長の改選になったのではないかと思料する。</p> <p>佐藤新市長は渥美市長の県議時代の同僚議員でもあったので、この機会を是非活かして、宮城オルレ奥松島コースの永久的な利活用と、観光政策や経済面または交流人口の促進など、命の橋としての役割も大きく安心安全の確保も視野に、中央要望と同様に塩釜市長と宮城県知事への力強い要望活動について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>櫻井 政文</p>	<p>1. 防災教育について（大川小の教訓を活かして）</p>	<p>大川小津波訴訟で最高裁が石巻市と宮城県の上告を棄却し、原告遺族の勝訴が確定した。学校防災体制の不備が認められた訳である。</p> <p>学校現場の防災責任は重く、学校防災において震災の現実や防災の重要性をどう伝え、教育していくのか。また、地震や津波が起こった時に、何をしなければならないかを考えだす思考力の鍛錬も必要となろう。</p> <p>最近の災害は地震、津波だけでなく、豪雨による水害、土砂崩れなど、どの地域に住んでいようが自然災害を被る危険性から逃れることはできないと感じる。このように災害を身近に感じられている時に、11月17日に開催された防災気象講演会「大雨から命を守るために」は時宜を得た講演として大いに評価したい。防災に関しては首長の意識、対応力がことさら重要であると思う。</p> <p>かけがえのない子供たちの命を守るために、さらなる学校防災の改善、防災意識の高揚と防災強化の取り組みを図ってほしいと思料する。そこで以下の所見を伺う。</p> <p>(1) 大川小津波訴訟の結果をどう受け止めるか。</p> <p>(2) 学校と地域との連携をどう図っていくか。</p> <p>(3) カリキュラムの中に防災といった授業をどう組み込んでいくのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第6位</p> <p>櫻井 政文</p>	<p>2. 自衛官募集事務について</p>	<p>本市には航空自衛隊松島基地があり、市長は常々市と基地とは共存共栄の関係を保持していく方針であると言明している。</p> <p>基地のまちとして騒音など問題もあるが、それ以上に基地があることによる恩恵を当市は享受していると思っている。</p> <p>については、自衛官の新規募集について他市町村より熱心に取り組む必要があると考える。そこで以下の所見を伺う。</p> <p>(1) 本市における自衛官募集事務の実情・内容は。また、協力いただける市内の組織についてはどうなっているのか。</p> <p>(2) 自衛官および予備自衛官補の募集、周知活動について。</p> <p>(3) 募集事務予算はいくら計上しているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第7位</p> <p>上田 勉</p>	<p>1. 矢本海浜緑地パークゴルフ場の指定管理と防災態勢のあり方について</p>	<p>平成31年4月26日、日本一のパークゴルフ場を目指し、矢本海浜緑地パークゴルフ場が開場した。県が整備後、市が指定管理により管理運営を行っている。</p> <p>4コース、36ホールでの運営を続け、11月1日からは、6コース54ホールでの本格的運営が開始され、不具合箇所を是正しながら順調な滑り出しをしているように見受けられる。</p> <p>しかしながら利用者からは、その都度要望などが出されており、その課題解決にはいまだ至っておらず、不十分な対応であると聞く。</p> <p>以下の点について市長に伺う。</p> <p>(1) 不具合箇所の是正について</p> <p>①コースの表示不具合の解決について</p> <p>②開場時間について(開場時刻とプレー開始時刻)</p> <p>③会員制度等のサービス向上策について</p> <p>④場内無線設備について</p> <p>(2) 全国大会等における助成金の在り方について</p> <p>矢本海浜緑地パークゴルフ場を会場とする、全国大会、東北大会、国際大会等および市内で宿泊を伴うなどの大会に対する助成等</p> <p>(3) 危機管理体制について</p> <p>①防災無線の設置について</p> <p>②非常時における体制(緊急伝達体制/態勢、テレビ・ラジオの設置、避難誘導、築山の利用等)について</p> <p>③要緊急時の態勢について</p> <p>④備蓄品等の管理・保守点検の現状について</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第7位</p> <p>上田 勉</p>	<p>2. ソフトバンク地方創生インターンシップの継続を提案する</p>	<p>9月20日、ソフトバンク地方創生インターン「<sup>ツレ</sup>TURE-<sup>テック</sup>TECH」学生たちのプレゼンがあった。</p> <p>これはソフトバンクが人材発掘、地域の課題解決および学生の学びの機会創出をめざし、日本の地方自治体が抱えるリアルな課題に対し、実際の現場に直接出向き、設定された課題の解決方法をチームで考え市長へ提案するもの。</p> <p>今回、愛媛県八幡浜市と東松島市が選定され本市では、9月15日から21日まで取り組み、発表がなされたものである。</p> <p>本インターンシップへの学生のエントリーは、慶應義塾大学、東京大学、早稲田大学、京都大学、九州大学などの学生2,033人、そのうち本市へは30名が選出され参加した。</p> <p>東松島市では、5つのテーマが参加学生に与えられ、市長がプレゼンを受けた。</p> <p>その中で次の内容について興味深く聞いたが</p> <p>(1) ふるさと納税を3年で6億円にする 新規寄付者獲得施策・・・1年間255万円</p> <p>(2) 観光客増加 情報発信不足、コト消費へのアプローチ</p> <p>(3) 定住化対策 関係人口100人の創出、情報発信能力不足 私たちに「KIT-<sup>キ</sup>TE<sup>テ</sup>CH<sup>ック</sup>情報発信させて」</p> <p>これらを参考に来年度も継続し、彼らに2～3年間研究させるための予算を計上してはどうかか。</p> <p>大学生10名程度、夏休み冬休みを利用して各2～3週間検討させ、提案させてはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第7位</p> <p>上 田 勉</p>	<p>3. 防衛関連予算の効果的運用について</p>	<p>市長は当選以来、防衛省・基地との共存共栄を意識的に前面に出し、よく中央省庁や関連機関等に赴いている。市の財政情勢を踏まえ、積極的に予算獲得活動を続けた結果として、矢本海浜緑地パークゴルフ場の休養施設・駐車場、駅前道路の確保、東松島消防署建築等に活用され、学校のPCや消防ポンプ積載車などは計画的に更新されている。また、新校舎を含め各学校のエアコンなども予算化されている。</p> <p>防衛省が公表した来年度予算の概算要求を見ると、基地対策経費が増額となっている。</p> <p>今後の関連予算の要望活動は、議会とともに要望することも必要だが、市長として、今後の防衛関連予算の事業計画について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>小野 惠章</p>	<p>1. 聖火到着日をメモリアルな日に</p>	<p>来年、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催される。本市においては、オリンピックで最も重要な象徴である聖火の到着地に選ばれた。ギリシャのアテネから本市の松島基地に令和2年3月20日にその聖火が降り立つ。その日の式典については、さまざまな調整が行われているものと推察する。この日は、日本はもちろん世界の目が東松島市に注がれるのを想像するに、大変光栄な出来事となることだろう。また、本市においては、二度とないメモリアルな日になるものと思われる。この事実を後世に残すべき歴史的な日として、本市の記念日として制定すべきと考える。</p> <p>本市は、鷹来の森運動公園、矢本海浜緑地パークゴルフ場、整備中の奥松島運動公園、また、宮城オルレ奥松島コース等の様々な施設を有する。次世代を担う未来の子ども達のためにも「スポーツ振興東京2020聖火到着地記念日」の制定について、市長、教育長の所感を伺う。</p> <p>(1) 記念日の制定について。</p> <p>(2) スポーツ振興と地域経済の活性化、拡大を図る各種スポーツ大会の誘致や創設について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第8位</p> <p>小野 惠章</p>	<p>2. 友好都市から経済互換都市へ</p>	<p>震災でさまざまな支援を頂いた数多くの関係の中から、本市は、友好都市等締結に至った北海道更別村、山形県東根市、埼玉県東松山市、東京都大田区や福岡県豊前市とは、民間交流やさまざまな交流事業の継続が図られている。</p> <p>特に、豊前市においては、毎回夏祭りに出店頂き、毎年継続的に売上金を全額ご寄付いただく等の支援を頂いている。また、議員交流も盛んであり、ただ単に交流を深めるだけではなく、互いの市の経済に寄与する事業交流も考えていくべき時期と考える。</p> <p>豊前市においては、鹿や猪のジビエ、鱧<sup>はも</sup>を何とか市場拡大できないものかと苦慮していると聞いた。このようなことを踏まえ、震災後頂いてきたご支援に報いる事業やお手伝いをすべきと思慮するが、市長の所見を問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. 原子力災害 広域避難計画について</p>	<p>11月13日、令和元年度宮城県原子力防災訓練が実施された。訓練では市民に向けて屋内退避指示が出され、一方で、本市の鷹来の森運動公園では避難退域時検査が行われ、赤井地区の一部の住民が訓練に参加、バス避難者は避難所となる岩沼市に向けて避難した。そこで広域避難について伺う。</p> <p>(1) 今回の避難訓練に参加された市民からの意見・感想および、新聞報道等による参加者の意見・感想などをどのように受け止めているか。</p> <p>(2) 今年1月24日の訓練との比較で訓練規模を大幅に縮小したことへの評価はどうか。</p> <p>(3) 前回もただしたが、避難時における交通渋滞、混乱はどのように予測し、市内4カ所の退域検査ポイントの検査台数、検査時間はどのように検討されているのか。</p> <p>(4) 本年3月の新聞報道によれば、検査時の渋滞を避けるために、県は退域時検査場所を従前の13カ所から3カ所追加して16カ所とし、さらに数カ所を検討するとしているが、資機材の配備、人員の配置などどのようにになっているのか。</p> <p>(5) 避難に際して、検査のための路上待機時間が長ければ、退域時検査ポイントを経由せず避難所に向かう市民が多数発生すると推測されるが、そうしたケースへの対応はどうか。</p> <p>(6) 乗用車を持たない住民のバスによる広域避難の場合、最大で市民1万人、必要なバスは250台としているが、車両確保の目途、配車、職員の添乗など実効性確保はその後どのように検討されているのか。</p> <p>(7) 割り当てられた避難所だが、原発事故の場合は、自然災害以上に避難生活が長期化すると推測される。それぞれの避難場所が国際的な「スフィア基準」や内閣府の「避難所運営ガイドライン」に照らして、避難所機能は十分確保されているのかどうか、確認はされているのか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第9位</p> <p>長谷川博</p>	<p>2. 市営墓地の整備について</p>	<p>平成29年第3回定例会において滝健一議員が「市営墓地の建設に着手を」と題していただいた。その際の、市内の墓地の設置状態について述べ、また、墓地の区画の変更では4宗教法人からの492区画の増加を許可し、このことにより墓地の需要と供給のバランスは取れているとの見解を述べている。一方で、前市長が、火葬場建設後に取りかかるとの流れに対しては、平成27年、市は無作為抽出による「公営墓地基礎調査」を実施しており、将来的に新たな墓地の取得を考えているとの回答が20.2%。そのうち、公営墓地を希望する世帯は116世帯、50.9%となっており、市営墓地に対する相談・要望等は市役所窓口には一切無いという状況だとし、公営墓地については的確な市民ニーズをしっかりと把握した中で今後決断しなければならない等と答弁している。</p> <p>4年前の基礎調査はそれとしても、今日は、少子高齢化と核家族化がさらに進行して、お墓を引き継ぐ家族に迷惑をかけたくない、ひいては墓じまいを考えるなど、従来からのお墓に対する考え方に大きな変化が生じていると思われる。家族関係と生活環境の変化が背景にあるのではないかと考える。</p> <p>一方で、今日の格差が拡大する社会にあって、厳しい暮らしを余儀なくされている市民にとっては、寺院の民間墓地を取得し墓石を建て、永代使用料及び年間管理費を負担することは大きな負担となる。4年前の基礎調査でも、東北地方あるいは宮城県内の公営墓地の永代使用および年間管理費の事例が示されており、一方で宮城県内の民営墓地の永代使用料および年間管理費の事例も示してある。その比較では、「民営墓地の1平方メートル当たりの永代使用料の平均は85,000円で、宮城県の公営墓地の1.35倍の水準。年間管理費は15,000円となっており、宮城県の公営墓地の4.12倍とかなり高額である」とし「民営墓地の場合はこのほかに入壇諸経費、護持会費などが必要になる場合がある」と調査結果を示している。このようにお墓に対する考え方の変化、また、世帯の事情によっては家族を供養したくても民間墓地では躊躇せざるを得ない現状がある。そこで以下について伺う。</p> <p>(1) 市民のお墓に対する考え方の変化をどのようにとらえているか。</p>

(2) 一方で、現状の厳しい暮らしで家族の供養も思うようにならない方々についてはどうか。

(3) この際、市営墓地の整備について、改めて検討すべきと考えるがどうか。

(4) 平成29年の滝議員への答弁で見解を示しているように、改めて市民の意向調査もこの際行うべきとも考えるがどうか。

(5) 新聞記事による事案だが、2018年10月8日付け「生活と健康を守る新聞」によれば、秋田市の市営墓地では、本年4月、従前の市営墓地に県内で初めて『合葬墓』を整備し、大きな反響があり市民に喜ばれているとの新聞記事がある。記事によれば、血縁や婚姻関係によらない多くの人の遺骨を一緒に葬る『合葬墓』の申し込みを受け付けたところ、収容可能な1500体分に達する応募があったとしている。秋田市における『合葬墓』の永代使用料が1体当たり17,000円で「墓を引き継ぐ人がいなければ、無縁墓地となってしまうのに対し、平和公園の敷地内の『合葬墓』は秋田市で管理し、墓を引き継がなくても利用できること、子どもに迷惑をかけなくてもよいこと、墓地を購入して墓石を建てるよりもはるかに負担が少ない」という申込者の声があると報じている。さらにこうしたことから、秋田市では多数の市民要望にもとづき、別の市営墓地に新たに1500体分の増設を決め、9月議会に補正予算を提案したとも報道されている。市営墓地の整備を検討する際、こうした形態についても幅広く調査・研究すべきと考えるがどうか。市長の見解を伺う。

【答弁を求める者 市長】

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>滝 健 一</p>	<p>1. 将来を見据えた政策の検討を</p>	<p>政策は元来将来の成り行きを見据え、創意、工夫、取捨選択をすべきと思われる。将来懸念されることは、税金の減少、福祉費用の増大、公共施設の修繕改築など財政制約が一層厳しさを増す中、住民サービスの維持向上、地域経済の発展を図る必要がある。選択と集中を徹底し、常に将来を見据えた政策の検討をして、その立案と実践を進める必要があると思われる。その一部について次の件を伺う。</p> <p>(1) 今後の地方自治体の広域連携の在り方を、どのように考え、どのように進めるか。</p> <p>(2) 市業務の一部について、地方独立行政法人のような組織の活用も考えられる時代が到来することも考えられる。その方向性をどのように捉えるか。</p> <p>(3) 家庭から排出される生ごみには、手付かずのまま捨てられた食品や食べ残し等、本来食べられるはずの食品ロスが多くなる傾向があるという。これからのごみ減量の鍵となるのは、こうした食品ロスの削減をいかに進めていくか重要である。取り組みに対する考え方は。</p> <p>(4) 異常気象により市民の天災に対する感覚が敏感になっている。こうした市民感覚を生かした防災減災の取り組みを強化すべきと思われる。総合的な見解は。</p> <p>(5) 副市長2人制は、これまで大きな効用をもたらしてきた。震災復興が前進したことでもあり、将来に渡ってはそろそろ元に戻すべきとの考え方も多くなりつつある。考え方は。</p> <p>(6) 東京2020オリンピック・パラリンピックの東京を中心に各地での各競技の展開を活用させていただき、東松島を他国に宣伝できるアイデアはないものか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>阿部としゑ</p>	<p>1. 避難所の不備を見直せ</p>	<p>全国各地で近年、豪雨や強風等による想像をはるかに超える甚大な被害が出て、全国民を驚かせている。こうした中、台風第19号による危険を察して本市では、いち早く避難所が設けられた。</p> <p>10月13日午前5時の時点で14カ所の避難所を設置した。さらに、吉田川は氾濫の恐れがあるため、川下地区と上下堤地区の対象世帯153世帯、417人に避難指示が発令された。多少の土砂災害や家屋等への被害や冠水の被害も聞かれたが、幸いにも人的被害はなく安堵した。</p> <p>以下の点について伺う。</p> <p>(1) 避難所の出入口に車椅子用のスロープを設置すべきではないか。</p> <p>(2) トイレの表示は男女共、黒表示（ズボン・スカート）で分かりにくいので、色分けすべきでは。また、小学校避難所のトイレが狭くて、高齢者の世話ができない。</p> <p>(3) 福祉避難所も指定されているというが、市民の方々はその便利さや自分は利用可能であるのか知らない。もっと周知すべきではないか。</p> <p>(4) 福祉避難所の使用が可能となれば、(1)と(2)の問題も多少解決されると思慮するが、避難してきた人に福祉避難所に行ってくださいとは言えないのではないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第11位</p> <p>阿部としゑ</p>	<p>2. 今後の給食の在り方について</p>	<p>平成30年第4回定例会において質問した栄養不足問題、食育の面、今後の給食の在り方・値上げについて再度伺う。</p> <p>市長は、「摂取基準に達していない要因の中に、異常気象や自然災害等により野菜を含む食材が高騰したことにより、材料の確保に苦慮したことが大きな要因」と答弁していた。しかし、育ち盛りの子供たちの健康や健全な心身の成長には十分な栄養素の摂取は欠かせないと思う。</p> <p>また、災害による食材への影響もあり、献立内容の工夫等だけでは解決できない問題もあると思う。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 現在、本市では栄養素不足は解消されたのか。</p> <p>(2) 全国的な農家への被害や消費税率の引き上げをどのように捉えているか。</p> <p>(3) 前回、栄養強化食品を利用して栄養量の充足に努めているというが、外国産の使用等でも安全は保たれているか。</p> <p>(4) 給食費の値上げについて、「保護者の負担増を考慮して、来年度においては据え置きたい。」と答弁があったが、台風等の被害により、食材が高騰していることを踏まえ、値上げについて変わらないか伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長、教育長】</p>

氏名	件名	要 旨
<p>第12位</p> <p>熱海 重徳</p>	<p>1. コミュニティ・スクール事業について</p>	<p>平成30年度から実施している事業ではあるが、学校運営協議会においても、何をしたいのかがよく理解できない。初めての事業で成果が出るまで時間がかかるのも分かるが、せつかく始めた事業であり、教育委員会にはしっかりと方向性を定め、引率してほしいと考える。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>(1) 学校運営協議会の人選について。</p> <p>(2) 学校運営における事業の役割について。</p> <p>(3) P T A活動との関連性について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>熱海 重徳</p>	<p>2. 道路側溝の 管理について</p>	<p>今年も大型の台風が連続して発生し、特に10月に上陸した台風第19号により全国各地で深刻なダメージを受けた。本市でも各地域で倉庫や農作物などに被害が出たが、死亡等の人的被害がなかったことは幸いであった。また、一時的に道路冠水等があったものの、住宅に床上浸水が無かったことは震災後に整備してきた雨水排水の効果が表れたと評価できるが、改めて排水経路の管理の重要性も認識された。特に側溝の清掃においては各地域で行っているが、高齢化も進み、コンクリートの蓋の開閉にかなり苦慮されている。</p> <p>そこで、市内の道路側溝を調査し直し、一定間隔でグレーチングに変更することを提案したいが市長の考えは。また、今後の効率良い管理方法を改めて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>1. 選挙行政について</p>	<p>少子高齢化、人口減少社会を迎えた我が国において、日本の未来を担う存在である10代にも、より政治に参画してもらう目的で選挙権が18歳と引き下げられたが、選挙が実施されるたび、低投票率が問題視されている。</p> <p>当市においても、同様の傾向にあり、これまでも一般質問はされているようである。そこにはさまざまな要因や、有権者自身の意思があるとは思いますが、一概に若者の政治的な関心の薄さだけではないように思われる。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>(1) ここ数年の選挙における投票率と、その中で期日前投票の割合は。</p> <p>(2) 期日前投票の際、提出する「宣誓書」について投票所入場券と一体となっている自治体もある。現状と改善策はないか。</p> <p>(3) 期日前投票に間に合わない「選挙公報」の配布について、選挙管理委員会では問題として話し合われたことはないか。</p> <p>(4) これまで投票率の向上のため、どのような取り組みがなされ、その成果と今後の対策は。</p> <p>(5) 期日前投票所の数は、今のままで充分か。交通手段の乏しい高齢者の投票機会を確保するため、巡回ワゴン車による移動期日前投票所の導入等を検討してはどうか。</p> <p>(6) 今後の投票率向上に向けて、市民の意識調査を行う考えはないか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 選挙管理委員会委員長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>手代木 せつ子</p>	<p>2. 粗大ごみのリユース化について</p>	<p>私は以前の一般質問において、住民が持ち込んだ粗大ごみについて、修理せずとも利用できる物について「もったいない」とその利用について質問したことがあった。粗大ごみは依然として減ることはなく、リユース化の進捗状況について伺う。</p> <p>(1) 直接搬入の住民に対し、また、戸別収集依頼の際に、以前と届出書の様式、電話での対応に異なる点はあるのか。その際の住民の反応はどうか。</p> <p>(2) どのような粗大ごみを対象としているのか。</p> <p>(3) 今後のリユース化実施に向けての計画は。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第14位</p> <p>佐藤 富夫</p>	<p>1. 公共施設等総合管理計画の現在進行形は</p>	<p>人口減少と自治体の財政負担から、公共施設等の老朽化、将来の運営費の対策として、政府総務省は標題について各自治体へ計画策定を要請したことは、周知の通りであり、全国の99%以上の自治体で策定し、実施の段階であると聞いている。</p> <p>この計画は、自治体の個別施設ごとの統廃合や更新のみならず中長期的な視野に立って、全国的に見直し、総量削減・経費削減を前提に国主導で推進して行くものである。その方針は、次のように各自治体に求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①安全で強靱なインフラシステムを構築をする。</li> <li>②総合的なインフラマネージメントを体現し、トータルコストの縮減と平準化をはかる。</li> <li>③これらによってメンテナンス産業を育成する。</li> <li>④全体的な維持管理、修繕・更新等に必要な経費の算出と充当財源の見込みを明らかにする。</li> </ul> <p>また、全国の自治体の実施方針をリサーチすれば概ね次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア. 施設の総量を削減する。</li> <li>イ. 新規施設は原則作らない。</li> <li>ウ. 複合化集約化を図る。</li> <li>エ. 予防保全、長寿化を推進する。</li> <li>オ. PPP/PFIを優先活用する。</li> <li>カ. 受益と負担の適正化をする。</li> <li>キ. 資産の有効活用を行う。</li> </ul> <p>このようになっているが、本市の現在進行形と所見について、以下の点を伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ①から③とアからキは。</li> <li>(2) 実現の見通しについて。</li> <li>(3) 令和2年度の、この件についての予算の考え方は。</li> <li>(4) 国のみならず、一般財源も必要であるが私が提言してきた市独自の財源確保の再考はどうか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>